

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

## I. 概況

## 【事業環境】

当第3四半期連結会計期間（以下、当第3四半期）における世界経済は緩やかな回復基調が続いておりますが、金融危機以降、景気回復の下支えとなってきた経済政策効果の一巡や、欧米での失業率の高止まり、欧州での金融システム不安や英国など各国政府の緊縮財政を背景に回復ペースが減速してきております。国内経済は雇用情勢の改善や、設備投資の持ち直しの動きがある一方、新興国向けを中心とした輸出の増勢の鈍化や、円高の進行など環境の厳しさが増してきており景気は足踏み状態にあります。

ICT（Information and Communication Technology）投資は、一部の企業における更新投資など回復の動きは見られますが、全体的には景気の先行き不透明感が残るなか、投資に慎重な姿勢が見られるなど本格的な回復には至っていない状況です。

## 【第3四半期（直近3ヶ月）の概況】

(単位：億円)

	2008年度 第3四半期 (2008年10月1日～ 2008年12月31日)	2009年度 第3四半期 (2009年10月1日～ 2009年12月31日)	2010年度 第3四半期 (2010年10月1日～ 2010年12月31日)	前年同期比		為替影響を 除く 増減率(%)
				増減率(%)	増減率(%)	
売上高	10,538	11,467	10,964	△503	△4.4	△0
売上原価	8,047	8,278	7,943	△334	△4.0	
売上総利益 (売上総利益率)	2,491 (23.6%)	3,189 (27.8%)	3,020 (27.5%)	△168 (△0.3%)	△5.3	
販売費及び一般管理費	2,743	2,852	2,807	△45	△1.6	
営業利益 (営業利益率)	△251 (△2.4%)	336 (2.9%)	212 (1.9%)	△123 (△1.0%)	△36.7	
営業外損益	△207	△27	△20	7	-	
経常利益	△459	308	192	△116	△37.6	
特別損益	△93	△150	31	181	-	
税金等調整前四半期純利益	△552	157	223	65	41.7	
法人税等	△107	92	57	△35	△38.1	
少数株主利益	△37	23	0	△23	△97.5	
四半期純利益	△407	41	165	124	302.2	

## 【第3四半期（累計）の概況】

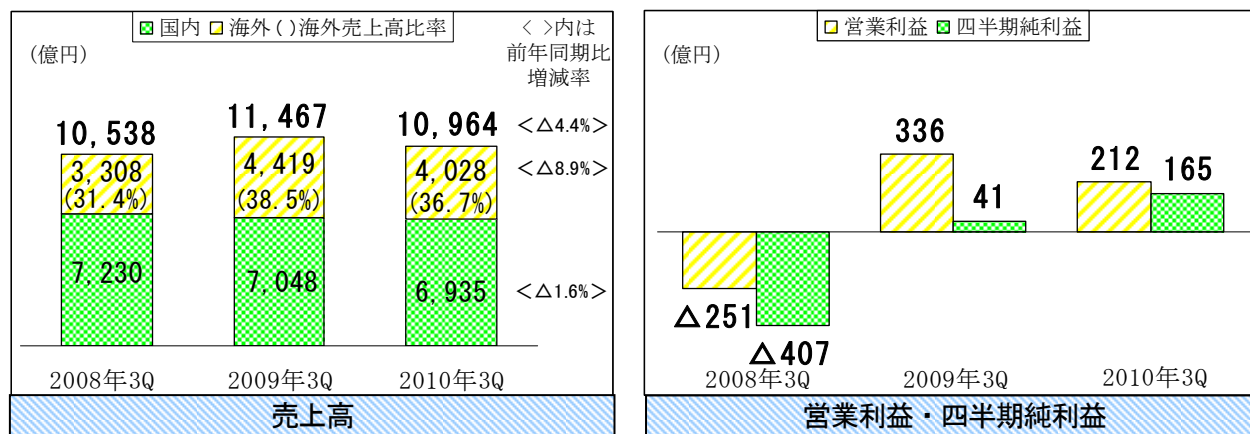
(単位：億円)

	2008年度 第3四半期累計 (2008年4月1日～ 2008年12月31日)	2009年度 第3四半期累計 (2009年4月1日～ 2009年12月31日)	2010年度 第3四半期累計 (2010年4月1日～ 2010年12月31日)	前年同期比		為替影響を 除く 増減率(%)
				増減率(%)	増減率(%)	
売上高	35,076	33,334	32,438	△895	△2.7	1
営業利益 (営業利益率)	133 (0.4%)	153 (0.5%)	684 (2.1%)	530 (1.6%)	344.7	
経常利益	△145	11	506	495	-	
四半期純利益	△361	473	356	△117	△24.8	

## Ⅱ. 第3四半期（直近3ヶ月）

文中に記載しております為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前第3四半期連結会計期間の平均円レートを当第3四半期連結会計期間の外貨建取引高に適用して試算しております。

### 【損益の状況】



売上高は1兆964億円と、前年同四半期連結会計期間（以下、前年同期）比4.4%の減収になりましたが、為替影響を除くと前年同期並みです。国内は1.6%の減収です。LSIや電子部品は堅調に推移しましたが、オーディオ・ナビゲーション機器、携帯電話基地局、サーバ関連が減収になりました。海外は8.9%の減収になりましたが、為替影響を除くと2%の増収です。英国では、引き続き政府の緊縮財政政策の影響を受けていますが、欧州大陸でのPCサーバやパソコンなどが伸長しました。

円高の進行は当第3四半期に入りやや鈍化したものの、米ドルの平均レートは83円（前年同期比7円の円高）、ユーロは112円（同21円）、英ポンドは131円（同16円）となり、為替影響により売上高が前年同期比で約450億円減少し、海外売上高比率は36.7%と、前年同期比1.8ポイント低下しました。

売上総利益は、LSI事業の構造改革により減価償却費などの固定費負担が減少した影響や、2000年度の退職給付会計の適用に伴う会計基準変更時差異の償却が前連結会計年度（以下、前年度）で完了した影響があったものの、為替影響などにより前年同期比168億円減少しました。また、売上総利益率は、前年同期比で、0.3ポイント低下し、27.5%になりました。

販売費及び一般管理費は、クラウドサービスなどに対する先行開発投資の増加があるものの為替影響などにより前年同期比45億円減少しました。

この結果、営業利益は212億円と、前年同期比123億円の減益になりました。

なお、当第3四半期連結累計期間（以下、当第3四半期（累計））の営業利益は684億円と、前年同四半期連結累計期間（以下、前年同期（累計））比530億円の増益になりました。

経常利益は192億円と、営業利益の減益により前年同期比116億円の減益になりました。

四半期純利益は165億円と、前年同期比124億円の増益になりました。特別損益では中国の深圳に上場している関連会社の増資に伴い、持分変動利益23億円を計上したほか、前年同期には欧州子会社の再編に伴う人員合理化費用を特別損失として150億円計上したことなどによります。

①セグメント情報

（単位：億円）

		2008年度 第3四半期	2009年度 第3四半期	2010年度 第3四半期	前年同期比		
		(2008年10月1日～ 2008年12月31日)	(2009年10月1日～ 2009年12月31日)	(2010年10月1日～ 2010年12月31日)	増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジー ソリューション	売上高	6,874	7,548	7,181	△366	△4.9	△1
	国内	4,734	4,518	4,446	△71	△1.6	△2
	海外	2,139	3,029	2,735	△294	△9.7	1
	営業利益 (営業利益率)	252 ( 3.7%)	315 ( 4.2%)	249 ( 3.5%)	△66 (△0.7%)	△21.0	
サービス	売上高	5,543	6,081	5,807	△273	△4.5	△0
	営業利益 (営業利益率)	255 ( 4.6%)	210 ( 3.5%)	190 ( 3.3%)	△19 (△0.2%)	△9.4	
	システム プラット フォーム	売上高 営業利益 (営業利益率)	1,331 △2 ( △0.2%)	1,466 105 ( 7.2%)	1,373 59 ( 4.3%)	△93 △46 (△2.9%)	△6.4 △43.9
ユビキタス ソリューション	売上高	2,215	2,967	2,895	△71	△2.4	1
	国内	1,893	2,141	2,148	6	0.3	0
	海外	322	826	747	△78	△9.5	2
	営業利益 (営業利益率)	△8 ( △0.4%)	162 ( 5.5%)	36 ( 1.3%)	△125 (△4.2%)	△77.3	
デバイス ソリューション	売上高	1,541	1,518	1,553	34	2.3	6
	国内	984	849	934	84	10.0	10
	海外	557	669	619	△49	△7.5	1
	営業利益 (営業利益率)	△226 ( △14.7%)	33 ( 2.2%)	84 ( 5.4%)	51 ( 3.2%)	155.5	
その他/ 消去又は全社	売上高	△93	△566	△666	△100	-	-
	営業利益	△269	△175	△157	17	-	
連結	売上高	10,538	11,467	10,964	△503	△4.4	△0
	国内	7,230	7,048	6,935	△112	△1.6	△2
	海外	3,308	4,419	4,028	△391	△8.9	2
	営業利益 (営業利益率)	△251 ( △2.4%)	336 ( 2.9%)	212 ( 1.9%)	△123 (△1.0%)	△36.7	

②売上高の主要製品別内訳

（単位：億円）

	2008年度 第3四半期 （2008年10月1日～ 2008年12月31日）	2009年度 第3四半期 （2009年10月1日～ 2009年12月31日）	2010年度 第3四半期 （2010年10月1日～ 2010年12月31日）	前年同期比		
				増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジーソリューション	6,874	7,548	7,181	△366	△4.9	△1
サービス	5,543	6,081	5,807	△273	△4.5	△0
ソリューション／S I	2,045	1,908	1,896	△12	△0.7	△1
インフラサービス	3,498	4,172	3,911	△260	△6.3	0
システムプラットフォーム	1,331	1,466	1,373	△93	△6.4	△3
システムプロダクト	602	744	763	19	2.6	7
ネットワークプロダクト	728	721	609	△112	△15.6	△13
ユビキタスソリューション	2,215	2,967	2,895	△71	△2.4	1
パソコン／携帯電話	1,442	2,146	2,249	102	4.8	8
モバイルウェア	773	820	646	△174	△21.2	△19
デバイスソリューション	1,541	1,518	1,553	34	2.3	6
L S I	1,006	835	874	38	4.6	7
電子部品	545	689	683	△5	△0.8	4

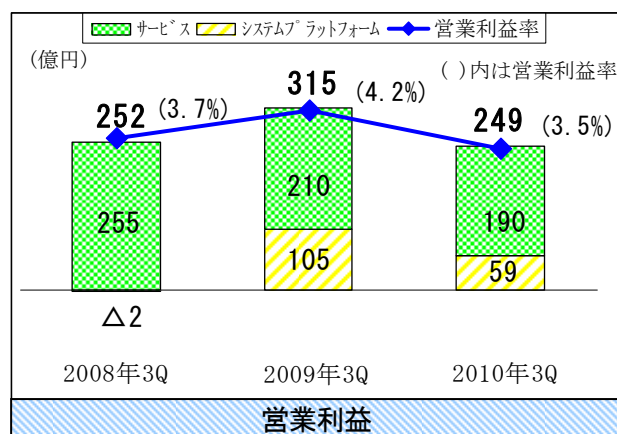
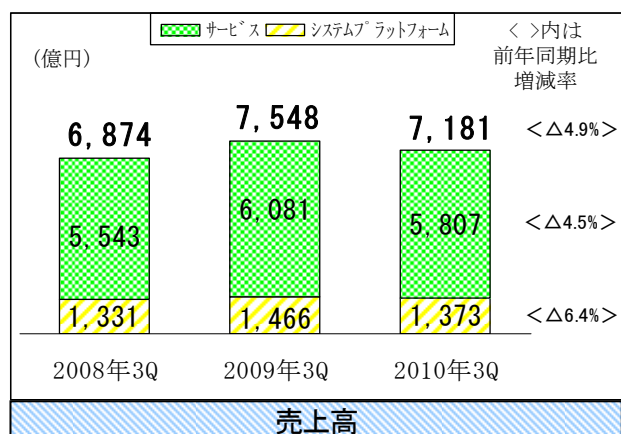
- (注)1. 2010年7月26日に公表した「セグメントの一部変更に関するお知らせ」のとおり、第1四半期連結会計期間より、セグメントを変更しております。主な変更点として、従来「サービス」のうち、「ソリューション／S I」及び「インフラサービス」に含めていた海外サービス事業を、「インフラサービス」に集約して表示しております。また、従来「その他」セグメントに含めていたオーディオ・ナビゲーション機器を、「ユビキタスソリューション」の「モバイルウェア」に区分変更しております。なお、2008年度、2009年度の売上高及び営業利益については、比較のため、組替表示しております。
2. 売上高にはセグメント間の内部売上高を含みます。
3. 為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前第3四半期連結会計期間の平均円レートを当第3四半期連結会計期間の外貨建取引高に適用して試算しております。
4. 「L S I」の売上高には、「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。
5. 「その他／消去又は全社」には、次世代スーパーコンピュータ事業、当社グループ会社向け情報システム開発・ファシリティサービス事業及び当社グループ従業員向け福利厚生事業等が含まれております。また、2008年度にはHDD事業(2009年10月1日に事業譲渡)が含まれております。

## 【セグメント別の状況】

当第3四半期のセグメント別の売上高（セグメント間の内部売上高を含む）及び営業利益は以下のとおりです。2010年7月26日に公表した「セグメントの一部変更に関するお知らせ」のとおり、第1四半期よりセグメントを変更しております。主な変更点として、従来「その他」セグメントに含めていたオーディオ・ナビゲーション機器を、「ユビキタスソリューション」に区分変更しております。なお、事業別セグメントの過年度の数値については、比較のため、組替表示しております。

## ＜事業別＞

## テクノロジーソリューション



(単位：億円)

(単位：億円)

	2010年度 第3四半期	前年同期比
売上高	7,181	△4.9%
国内	4,446	△1.6%
海外	2,735	△9.7%
営業利益	249	△66

	2010年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	21,189	△3.2%
国内	13,306	0.1%
海外	7,882	△8.3%
営業利益	813	184

売上高は7,181億円と、前年同期比4.9%の減収になり、為替影響を除いても1%の減収です。国内は1.6%の減収です。サービスは、円高や政策効果の反動を背景とした顧客の投資抑制などが継続しており、システムプラットフォームは、携帯電話基地局が、LTE（注）の商用サービスが開始されたものの、本格展開前の端境期に入ったことにより減収になりました。海外は9.7%の減収になりましたが、為替影響を除くと1%の増収です。英国では、引き続き政府の緊縮財政政策の影響を受けていますが、欧州大陸でのPCサーバなどは、堅調に推移しています。

営業利益は249億円と、前年同期比66億円の減益になりました。国内では、退職給付会計の適用に伴う会計基準変更時差異の償却が前年度で完了した影響があったものの、携帯電話基地局などの減収影響により減益になりました。海外では、英国ICL PLC（現、Fujitsu Services Holdings PLC）取得時に計上したのれんの償却が前年度で完了した効果などがあったものの、英国子会社での退職給付費用の負担増や一部プロジェクトにおける採算悪化などがありました。

（注）LTE：Long Term Evolution の略称。第3世代携帯電話方式（3G）のデータ通信規格を更に進化させた次世代の高速なデータ通信規格。

## ① サービス

(単位：億円)			(単位：億円)		
	2010年度 第3四半期	前年同期比		2010年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	5,807	△4.5%	売上高	17,099	△4.0%
国内	3,480	△1.4%	国内	10,476	△0.3%
海外	2,327	△8.7%	海外	6,623	△9.4%
営業利益	190	△19	営業利益	575	21

売上高は5,807億円と、前年同期比4.5%の減収になりましたが、為替影響を除くと前年同期並みです。国内は1.4%の減収です。システムインテグレーションは、円高や政策効果の反動を背景とした顧客の投資抑制などが継続しています。海外は8.7%の減収になりましたが、為替影響を除くと2%の増収です。英国では、引き続き政府の緊縮財政政策の影響を受けていますが、インフラサービスが欧州大陸や米州で増収になり、イメージスキャナなどが堅調に推移しました。

営業利益は190億円と、前年同期比19億円の減益になりました。国内では減収影響があったものの、会計基準変更時差異の償却が前年度で完了したことなどによる退職給付費用の負担減などにより前年同期並みになりました。海外では、増収影響や英国ICL PLC取得時に計上したのれんの償却が前年度で完了した効果があったものの、英国子会社での退職給付費用の負担増や一部プロジェクトにおける採算悪化などにより赤字が継続しました。

## ② システムプラットフォーム

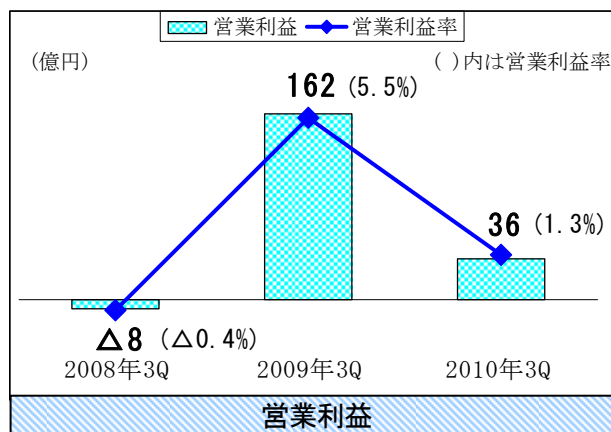
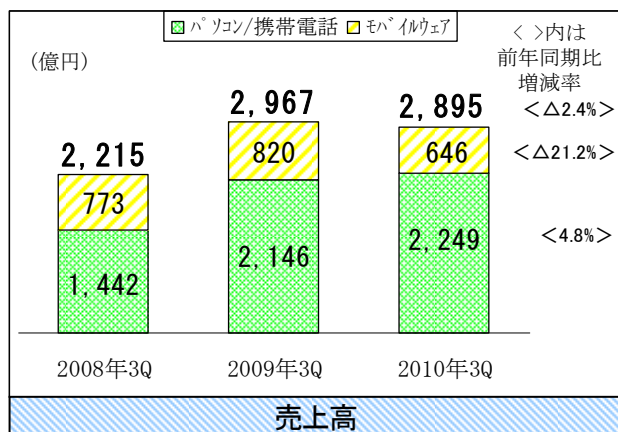
(単位：億円)			(単位：億円)		
	2010年度 第3四半期	前年同期比		2010年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	1,373	△6.4%	売上高	4,089	0.4%
国内	965	△2.1%	国内	2,830	1.6%
海外	407	△15.1%	海外	1,259	△2.2%
営業利益	59	△46	営業利益	237	162

売上高は1,373億円と、前年同期比6.4%の減収になり、為替影響を除いても3%の減収です。国内は2.1%の減収です。次世代スーパーコンピュータシステムを構成する専用サーバなどの量産による売上に伴い増収になりましたが、携帯電話基地局が、LTEの商用サービスが開始されたものの、本格展開前の端境期に入ったことや前年同期に金融分野で大口顧客向け基幹系システムの更改対応商談があったことなどにより減収になりました。海外は15.1%の減収になり、為替影響を除いても5%の減収です。欧州大陸でのPCサーバや米国でのキャリア向け光伝送システムなどは堅調でしたが、前年同期に光海底ケーブルシステムの機器増設商談があったことや米国でのUNIXサーバの所要減により減収になりました。

営業利益は59億円と、前年同期比46億円の減益になりました。国内では、商用サービス開始に伴うLTEなどの開発費がピークアウトしたものの、携帯電話基地局などの減収影響により減益になりました。海外でも、光海底ケーブルシステムやUNIXサーバなどの減収影響により減益になりました。

なお、当第3四半期（累計）の営業利益は237億円と、前年同期（累計）比162億円の増益になりました。

ユビキタスソリューション



(単位：億円)

(単位：億円)

	2010 年度 第 3 四半期	前年同期比
売上高	2,895	△2.4%
国内	2,148	0.3%
海外	747	△9.5%
営業利益	36	△125

	2010 年度 第 3 四半期累計	前年同期比
売上高	8,307	2.8%
国内	6,254	7.7%
海外	2,053	△9.8%
営業利益	188	△105

売上高は2,895億円と、前年同期比2.4%の減収になりましたが、為替影響を除くと1%の増収です。国内は前年同期並みです。パソコンは、前年同期に教育用パソコンの需要が増加した反動もありましたが、古いOS搭載機の出荷終了前の駆け込み需要があり前年同期並みになりました。携帯電話は、統合の影響により増収になりました。またモバイルウェアのオーディオ・ナビゲーション機器は、補助金制度終了に伴う新車販売台数の減少に伴い、減収になりました。海外は9.5%の減収になりましたが、為替影響を除くと2%の増収です。パソコンは、欧州市場で為替変動に伴うコスト増の価格転嫁が進んだことなどにより、増収になりました。一方でモバイルウェアは欧州、アジア向けで苦戦していますが、米国向けでは回復の兆しがありました。

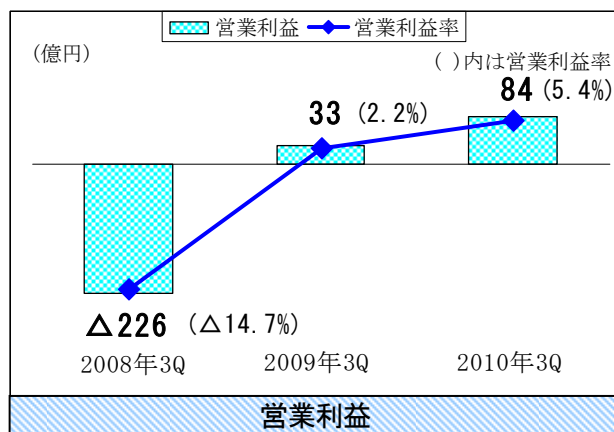
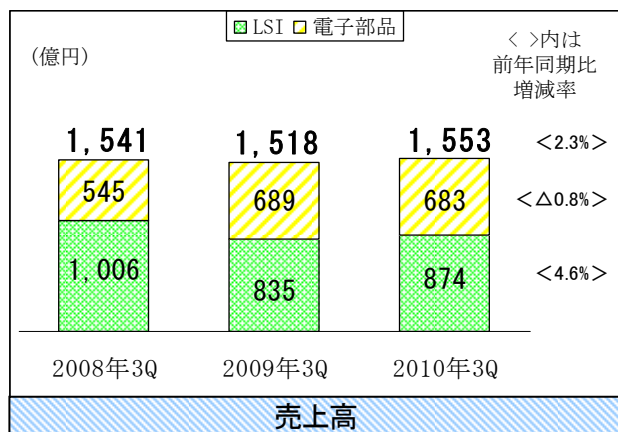
営業利益は36億円と、前年同期比125億円の減益になりました。国内では、携帯電話がフィーチャーフォン（注）の減収影響を受けたほか、スマートフォンなどの開発投資を継続しています。モバイルウェアでも減収影響がありました。海外では、パソコンの増収効果がありましたが、前年同期に私的複製補償金に関する権利者団体との和解に伴う一時的な費用の減少があったことにより、減益になりました。

当社と株式会社東芝（以下、東芝）の携帯電話事業を統合するために設立された新会社は、2010年10月1日に、東芝の携帯電話事業を譲り受け、新会社の株式の80.1%を当社が取得して事業を開始しました。なお、当社の携帯電話事業は、これまで通り富士通本体において継続いたします。

パソコンは国内でのものづくりによる品質の維持と、グローバルな部品調達や設計共通化によるコストダウンを更に進めて競争力を高めるとともに、携帯電話との融合をにらんだ製品開発に取り組み、ヒューマン・セントリックなインテリジェント・ソサエティを支えるユビキタスフロントとして新たな利用価値を提案してまいります。

(注)フィーチャーフォン：携帯情報端末（PDA）の機能や、パソコンのようなカスタマイズの自由度を備えたスマートフォンと区別される、一般的な携帯電話端末。

## デバイスソリューション



(注)「LSI」の売上高には「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。

(単位：億円)

	2010年度 第3四半期	前年同期比
売上高	1,553	2.3%
国内	934	10.0%
海外	619	△7.5%
営業利益	84	51

(単位：億円)

	2010年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	4,750	10.5%
国内	2,681	9.9%
海外	2,068	11.4%
営業利益	197	345

売上高は1,553億円と、前年同期比2.3%の増収になり、為替影響を除くと6%の増収です。国内は10%の増収です。LSIは、次世代スーパーコンピュータシステム用CPUの量産が本格化した影響により増収になりました。電子部品は、前年度第4四半期に買収したニッケル水素電池事業などが伸長しました。海外は7.5%の減収になりましたが、為替影響を除くと1%の増収です。LSIは欧州や米国向けが増収になりました。電子部品は、前年度末までに通信デバイス事業を太陽誘電株式会社へ譲渡した影響があったものの、電池事業の買収効果がありました。

営業利益は84億円と、前年同期比51億円の増益になりました。国内では、LSIが製造体制の再編と間接業務の効率化により固定費を圧縮したほか、国内工場の稼働率が高い水準を維持したため、増益になりました。電子部品も増収効果やコストダウンの推進により増益になりました。海外ではLSI、電子部品ともに、為替影響による悪化を増収効果とコストダウンで補い、増益になりました。

なお、当第3四半期（累計）の営業利益は197億円と、前年同期（累計）比345億円の増益になりました。

## その他／消去又は全社

営業利益は157億円の損失と、前年同期比17億円の改善になりました。

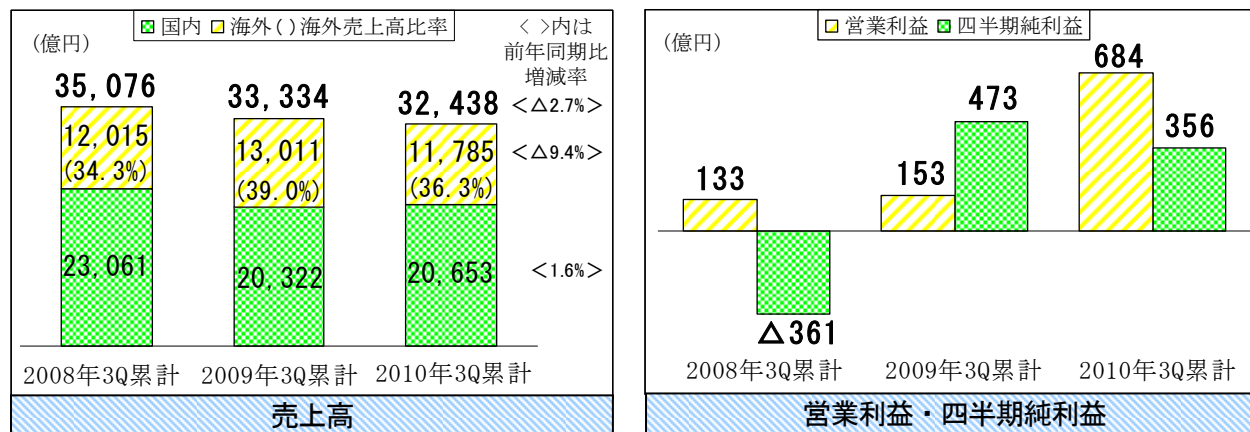
2012年秋の供用開始を目指す次世代スーパーコンピュータシステムについては、CPUや専用サーバの製造を行う各子会社において生産が順調に進んでおり、当第3四半期に第1回目の分割検収を受け売上を計上しました。当該システムについては、前年度末に将来見込まれる損失額を引当計上しましたが、最新の生産や調達の計画に基づくコストダウン見込額を当第3四半期の損益に織り込みました。



### Ⅲ. 第3四半期（累計）

文中に記載しております為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前第3四半期連結累計期間の平均円レートを当第3四半期連結累計期間の外貨建取引高に適用して試算しております。

#### 【損益の状況】



売上高は3兆2,438億円と、前年同四半期連結累計期間（以下、前年同期）比2.7%の減収になりましたが、為替影響及びHDD事業の譲渡による影響を除くと4%の増収です。国内は1.6%の増収です。サービスは、顧客の投資抑制の影響などが続かなか前年同期並みになりましたが、パソコンや携帯電話、LSI、電子部品などを中心として増収になりました。海外は9.4%の減収になりましたが、為替影響及びHDD事業の譲渡による影響を除くと6%の増収です。英国では、引き続き政府の緊縮財政政策の影響を受けていますが、LSIや電子部品が米州向けを中心に増収になったほか、光伝送システムやモバイルウェアも米国で伸長しました。

なお、為替影響により売上高が前年同期比で約1,250億円減少しております。海外売上高比率は36.3%と、為替影響及びHDD事業の譲渡による影響などにより前年同期比で、2.7ポイント低下しました。

売上総利益は、為替影響があったものの、国内での増収効果に加え、LSI事業の構造改革により減価償却費などの固定費負担が減少した影響や、2000年度の退職給付会計の適用に伴う会計基準変更時差異の償却が前連結会計年度で完了した影響などにより前年同期比251億円増加しました。また、売上総利益率は、採算性が悪化していたHDD事業を譲渡した影響やLSI事業の構造改革効果などにより前年同期比で、1.5ポイント改善し、27.9%になりました。

販売費及び一般管理費は、前年同期比278億円減少しました。為替影響及びHDD事業の譲渡による影響があったほか、英国ICL PLC取得時に計上したのれんの償却が前年度で完了した効果や前年同期にはFujitsu Technology Solutions (Holding) B.V.の連結子会社化に伴う一時的な費用負担があった影響などによります。

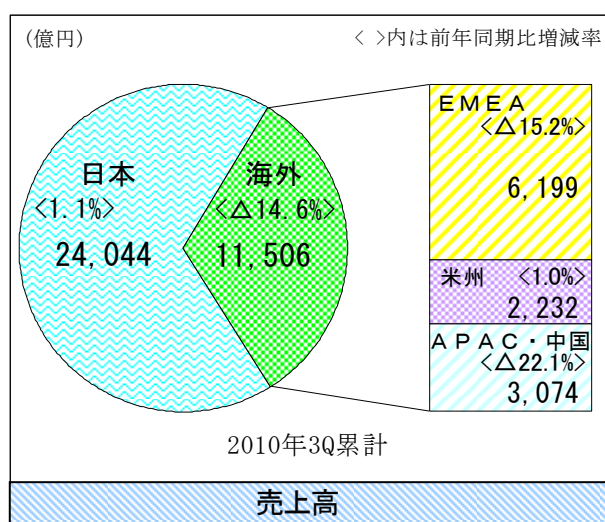
この結果、営業利益は684億円と、前年同期比530億円の増益になりました。

経常利益は506億円と、営業利益の増益により前年同期比495億円の増益になりました。営業外損益では、円高の進行に伴う為替差損113億円が発生しました。

四半期純利益は356億円と、前年同期比117億円の減益になりました。経常利益の増益や特別損益で投資有価証券売却益などの計上があったものの、前年同期にはファナック株式会社の株式売却益など特別損益を503億円計上したことに加え、株式売却に伴い繰延税金資産の回収可能額が増加し、評価性引当金を取崩したことによる税負担の軽減影響があったことによります。

### <所在地別>

当社及び連結子会社が所在する国又は地域ごとの売上高及び営業利益は以下のとおりです。



### 〔営業利益〕

(単位：億円)

	2010年 3Q	前年 同期比	2010年 3Q累計	前年 同期比
日 本	330 ( 4.2%)	△49 (△0.5%)	1,210 ( 5.0%)	619 ( 2.5%)
海 外	55 ( 1.4%)	△51 (△1.1%)	15 ( 0.1%)	10 ( 0.1%)
EMEA (欧州・中近東・77国)	5 ( 0.2%)	△52 (△2.1%)	△96 (△1.6%)	13 (△0.1%)
米 州	19 ( 2.7%)	1 ( 0.1%)	38 ( 1.7%)	32 ( 1.4%)
APAC・中国 (アジア・パシフィック)	30 ( 3.1%)	△0 ( 0.2%)	72 ( 2.4%)	△35 (△0.3%)

(注) ( ) 内は営業利益率

①セグメント情報

（単位：億円）

		2008年度 第3四半期累計 （2008年4月1日～ 2008年12月31日）	2009年度 第3四半期累計 （2009年4月1日～ 2009年12月31日）	2010年度 第3四半期累計 （2010年4月1日～ 2010年12月31日）	前年同期比		
					増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジー ソリューション	売上高	22,217	21,892	21,189	△703	△3.2	1
	国内	14,643	13,295	13,306	11	0.1	0
	海外	7,574	8,597	7,882	△714	△8.3	2
	営業利益 （営業利益率）	958 ( 4.3%)	628 ( 2.9%)	813 ( 3.8%)	184 ( 0.9%)	29.3	
サービス	売上高	17,827	17,820	17,099	△720	△4.0	0
	営業利益 （営業利益率）	810 ( 4.5%)	554 ( 3.1%)	575 ( 3.4%)	21 ( 0.3%)	3.9	
	システム プラットフォーム	売上高 営業利益 （営業利益率）	4,389 147 ( 3.4%)	4,071 74 ( 1.8%)	4,089 237 ( 5.8%)	17 162 ( 4.0%)	0.4 218.4
ユビキタス ソリューション	売上高	7,688	8,081	8,307	226	2.8	6
	国内	6,416	5,806	6,254	447	7.7	8
	海外	1,272	2,274	2,053	△221	△9.8	0
	営業利益 （営業利益率）	207 ( 2.7%)	293 ( 3.6%)	188 ( 2.3%)	△105 (△1.3%)	△36.0	
デバイス ソリューション	売上高	5,444	4,298	4,750	451	10.5	14
	国内	3,311	2,440	2,681	240	9.9	10
	海外	2,132	1,857	2,068	211	11.4	20
	営業利益 （営業利益率）	△303 ( △5.6%)	△147 ( △3.4%)	197 ( 4.2%)	345 ( 7.6%)	-	
その他/ 消去又は全社	売上高	△273	△938	△1,808	△870	-	-
	営業利益	△728	△620	△514	106	-	
連結	売上高	35,076	33,334	32,438	△895	△2.7	1
	国内	23,061	20,322	20,653	330	1.6	2
	海外	12,015	13,011	11,785	△1,225	△9.4	0
	営業利益 （営業利益率）	133 ( 0.4%)	153 ( 0.5%)	684 ( 2.1%)	530 ( 1.6%)	344.7	

②売上高の主要製品別内訳

（単位：億円）

	2008年度 第3四半期累計 （2008年4月1日～ 2008年12月31日）	2009年度 第3四半期累計 （2009年4月1日～ 2009年12月31日）	2010年度 第3四半期累計 （2010年4月1日～ 2010年12月31日）	前年同期比		
				増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジーソリューション	22,217	21,892	21,189	△703	△3.2	1
サービス	17,827	17,820	17,099	△720	△4.0	0
ソリューション／S I	6,272	5,672	5,691	19	0.3	0
インフラサービス	11,555	12,148	11,408	△739	△6.1	△0
システムプラットフォーム	4,389	4,071	4,089	17	0.4	4
システムプロダクト	2,025	2,074	2,130	56	2.7	6
ネットワークプロダクト	2,364	1,997	1,959	△38	△1.9	1
ユビキタスソリューション	7,688	8,081	8,307	226	2.8	6
パソコン／携帯電話	4,993	5,945	6,146	200	3.4	7
モバイルウェア	2,694	2,136	2,161	25	1.2	3
デバイスソリューション	5,444	4,298	4,750	451	10.5	14
L S I	3,323	2,355	2,567	211	9.0	12
電子部品	2,158	1,960	2,195	235	12.0	17

- (注)1. 2010年7月26日に公表した「セグメントの一部変更に関するお知らせ」のとおり、第1四半期連結会計期間より、セグメントを変更しております。主な変更点として、従来「サービス」のうち、「ソリューション／S I」及び「インフラサービス」に含めていた海外サービス事業を、「インフラサービス」に集約して表示しております。また、従来「その他」セグメントに含めていたオーディオ・ナビゲーション機器を、「ユビキタスソリューション」の「モバイルウェア」に区分変更しております。なお、2008年度、2009年度の売上高及び営業利益については、比較のため、組替表示しております。
2. 売上高にはセグメント間の内部売上高を含みます。
3. 為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前第3四半期連結累計期間の平均円レートを当第3四半期連結累計期間の外貨建取引高に適用して試算しております。
4. 「L S I」の売上高には、「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。
5. 「その他／消去又は全社」には、次世代スーパーコンピュータ事業、当社グループ会社向け情報システム開発・ファシリティサービス事業及び当社グループ従業員向け福利厚生事業等が含まれております。また、2008年度、2009年度にはHDD事業（2009年10月1日に事業譲渡）が含まれております。